ロジックモデル推進に向けた地域のニーズを把握する事例

研究分担者　後藤　あや　（福島県立医科大学総合科学教育研究センター）
研究協力者　新井　猛浩　（山形大学地域教育文化学部）

研究要旨

成育医療等基本方針に基づく施策の実施状況に関する評価の指標には、「PDCA(plan-do-check-act）サイクル実施に関する項目が含まれている。ロジックモデルは主に国際協力の分野で使われてきた、PDCA サイクルのツールである。初年度の報告書では、ロジックモデルの代表的な手法を紹介し、実際に自治体のデータに基づいた事業計画書作成の事例について検討した。2 年度は、ロジックモデル作成に反映するその地域なりのロジック（活動から目標のつながり）の検討事例と、ロジックモデルの手法を推進する上で必要な研修の参加者アンケートの結果について提示した。最終年度は、成育医療等基本方針に基づく評価指標に沿い、地域で必要とされるきめ細かいサービスを提供するために、これまで分析したデータを用いて、より詳細な分析（父親と母親の層別分析）を行った。

A．研究目的

成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針（以下、成育医療等基本方針）に基づく施策の全体的な実施状況の評価指標として、PDCA（plan-do-check-act）サイクルを実施するための成育保健医療計画を策定についての項目が含まれている。地方公共団体には、成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律（成育基本法）に定める基本理念に則り、施策の実施状況等を客観的に評価して必要な見直しにつなげる PDCA サイクルに基づく取組を適切に実施することが求められる。その一つの方法として、国際開発機構（FASID）開発した Project Cycle Management(PCM)を初年度に報告した。この方法により事業計画を立案する段階は、「参加型計画手法」と呼ばれる。地域の人々が参画することにより、地域のニーズが反映される計画にすることを目的としている。しかし、参画した人が誰かにより内容に偏りや抜けがでてくることもありうる(1)。そのためには、当該分野の専門的知見が必要であり、地域の状況を把握するためのきめ細やかなエビデンスが必要となる。

そこで、地域のニーズを把握するためのエビデンス提示の具体例として、初年度より福島市子ども子育て支援事業計画策定にかかるニーズ調査のデータを分析してきた。2 年度目に行った学童期の子どもの母親のデータ分析から、家庭の経済状況に関わらず、放課後児童クラブ利用のニーズが子育ての環境や支援への満足度と関連することが明らかになった。本報告では、学童期の子どもの父親が回答している例に注目し、母親との比較を行うことで、成育医療等基本方針に基づく評価指標で取り上げられている父親を対象とした育児支援の方策を検討することとした。

B．研究方法

これまでの報告同様、福島市子ども子育て支援事業計画策定にかかる 2018 年度ニーズ調査報告書のデータを用いた。注目した変数もこれまでと同様に、小学生を持つ対象者の家計の状況と福島市の子育て環境や支援への満足度である。

満足度に関連する要因としては、児の学年、兄弟の人数、配偶者の有無、主な子育ての担い手、子育てについて相談や協力を求められる相手の有無、子育ての自信、母親の就労状況、放課後児童クラブの利用状況である。

家計の状況については、ゆとりがある、ややゆとりがある、ふつう、やや苦しい、大変苦しいの 5 件法で回答を求め、やや苦しいまたは大変苦しいと回答したものを家計の状況が苦しいとした。子育て環境や支援への満足度については 5 段階評価で回答を求め、1 と 2 を低評価、3-5 を中・高評価とした。児の学年は 1-2 年生と 3-6 年生にまとめ、低学年と中・高学年とした。主な子育ての担い手については父母ともにおよび主に母とした。子育てについて相談や協力を求められる相手について、どちらもいるか否かとした。母親の就労状況についてはフルタイムで働いているか否かとした。放課後児童クラブの利用状況については、利用できている・利用希望なしと利用できていないとし、利用できていない理由も調べた。

（倫理面への配慮）

分析に用いたデータは福島市が実施した無記名アンケートから作成されたものである。匿名データの二次利用であるため「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に該当せず、福島県立医科大学の倫理審査は不要とされた。

C．研究結果

父母別に回答者の特徴を表 1 に示した。児の学年、配偶者の有無、子育ての環境や支援への満足度、家計の状況、母親の就労状況、放課後児童クラブの利用状況については、父母により違いは見られなかった。一方、兄弟の人数については、回答者が父親の場合に子どもがひとりのみがやや多かった。回答者が父親の場合、主な子育ての担い手が父親である場合がほとんどで、回答者が母親の場合と明らかな違いがあった。また、子育てについて相談や協力を求めることのできる相手のいない者や、子育てについて自信を持てないことがない者は、回答者が父親の場合に多かった。

回答者が母親の場合の、地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因について表 2 に示した。児の学年、配偶者の有無、相談や協力先の相手の有無、子育てに自信が持てないこと、家計の状況、放課後児童クラブの利用状況についてそれぞれ満足度と有意な関連がみられた。これらを共変量として調整したところ、児の学年、配偶者の有無、相談や協力先の相手の有無、子育てに自信の持てないこと、家計の状況、放課後児童クラブについてそれぞれ有意な関連がみられた。児が低学年の場合、子育て環境や支援への満足度が低いオッズ比は 1.318、ひとり親では 1.352、相談や協力先の相手がいない者では 1.367、子育てに自信が持てないことがない者では 0.720、家計の状況が苦しい者では 1.756、放課後児童クラブが利用できていない者では 1.956 だった。

回答者が父親の場合の、地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因について表 3 に示した。家計の状況のみに有意な関連がみられ、家計の状況が苦しい者における子育て環境や支援への満足度が低いオッズ比は 2.660 だった。

D．考察

アンケートの回答者が父親の場合は、父親が子育てを主に担っていることが多く、また、地域における子育て環境や支援への父親の満足度には家計の状況が大きく関連する傾向を示した。一方、回答者が母親の場合に関連が見られた児の学年、配偶者の有無、相談や協力先の有無、育児の自信の有無、放課後児童クラブの利用状況は、父親ではどれも関連していなかった。これらの結果から父親の子育て支援については、経済的な対策に特に重点をおく必要があることが示唆される。

父親の子育て参加を促す支援については、手段的支援や子育て学級等の支援等が適当であるが(2,3)、主な子育ての担い手が父親である家庭への支援については、家計の状況に応じて経済的支援のニーズに応えることも大切である(4)。育児に積極的な父親の健康度が、仕事の困難感や生活の余裕のなさを感じることにより低下するとの報告もあり(5)、家計の状況をよく把握することは子育てを担う父親への支援にとって重要な点である。

E．結論

成育医療等基本方針の評価指標と照らし合わせながら地域のデータを詳細に分析することにより、国の指針および地域のニーズに沿った育児支援が立案できることを示唆する事例を提示した。

【参考文献】

1) 国際協力機構(JICA). PCM 手法の考え方. https://www.jica.go.jp/Resource/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200712_aid_10.pdf
2) 岩佐一, 石井佳代子, 吉田祐子. 性別役割分業観ならびに母親からのソーシャルサポートと父親の育児参加との関連. 日本公衆衛生雑誌. 2023; 70: 112-123.
3) 高瀬寛子, 荒木田美香子. 幼児の父親の育児および家事における実施状況とその関連要因. 日本公衆衛生雑誌. 2022; 69: 814-823.
4) 清水いづみ, 浅野みどり. 一般的な父親の子育てストレスと NICU 退院後の父親の子育てに関する国内文献検討. 日本小児看護学会誌. 2021; 30: 131-138.
5) 髙木悦子, 小崎恭弘. 育児に積極的に関わる父親の心身の健康度に関連する要因. 母性衛生. 2021; 62: 301-307.

F．研究発表

1．論文発表

1) Arai T, Goto A. Parents' needs and satisfaction levels for parenting support schemes provided by local government: Secondary analysis of cross-sectional survey data. J Prim Care Community Health. 2023 Jan-Dec; 14: 21501319231199978.

2．学会発表

なし

G．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

表1　回答者（父母）と関連要因

	回答者				
	母		父		p 値
	N=2230	%	N=171	%	
児の学年					
低学年	654	93.0	49	7.0	0.818
中・高学年	1564	92.8	122	7.2	
兄弟の人数（本人含む）					
１人	575	89.8	65	10.2	<0.001
２人以上	1630	94.1	103	5.9	
配偶者の有無					
あり	1989	93.2	146	6.8	0.117
なし	239	90.5	25	9.5	
主な子育ての担い手					
父母ともに	1180	91.8	106	8.2	<0.001
主に母	1048	96.8	35	3.2	
主に父	2	6.3	30	93.8	
相談や協力先の相手					
どちらもいる	1992	94.0	127	6.0	<0.001
どちらかいない・いない	238	84.4	44	15.6	
子育てに自信持てないこと					
ある	1399	94.7	78	5.3	<0.001
ない	817	90.0	91	10.0	
子育ての環境や支援への満足度					
中・高評価	1265	92.9	96	7.1	0.734
低評価	822	92.6	66	7.4	
家計の状況					
ふつう・ゆとりある	1475	93.3	106	6.7	0.259
苦しい	752	92.0	65	8.0	
母親の就労状況					
フルタイム	920	93.4	65	6.6	0.193
パート・アルバイト・就労なし	1265	94.7	71	5.3	
放課後児童クラブ					
利用できている・利用希望なし	1989	92.9	153	7.1	0.890
利用できていない	216	93.1	26	6.9	

表2　地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因＜小学生の母親＞

	満足度				単変量解析[a]			多変量解析[a]		
	低群		中高群							
	N=821	%	N=1264	%	OR	95%CI	p値	aOR	95%CI	p値
児の学年										
低学年	267	43.4	348	56.6	1.226	1.045-1.533	0.016 **	1.318	1.082-1.606	0.006 **
中・高学年	551	37.7	909	62.3	1.000			1.000		
兄弟の人数（本人含む）										
１人	226	41.9	314	58.1	1.152	0.943-1.406	0.166			
２人以上	585	38.5	936	61.5	1.000					
配偶者の有無										
あり	711	38.2	1149	61.8	1.000			1.000		
なし	109	48.9	114	51.1	1.545	1.169-2.042	0.002 **	1.352	1.007-1.814	0.045 *
主な子育ての担い手										
父母ともに	416	37.9	683	62.1	1.000					
主に母	405	41.1	581	58.9	1.144	0.960-1.365	0.133			
相談や協力先の相手										
どちらもいる	711	38.2	1151	61.8	1.000			1.000		
どちらかいない・いない	110	49.3	113	50.7	1.576	1.193-2.082	0.001 **	1.367	1.021-1.829	0.036 *
子育てに自信持てないこと										
ある	560	43.2	737	56.8	1.000			1.000		
ない	257	33.1	519	66.9	0.652	0.541-0.785	<0.001 ***	0.720	0.594-0.873	<0.001 ***
家計の状況										
ふつう・ゆとりある	472	34.0	915	66.0	1.000			1.000		
苦しい	347	49.9	348	50.1	1.933	1.606-2.327	<0.001 ***	1.756	1.444-2.136	<0.001 ***
母親の就労状況										
フルタイム	356	41.6	499	58.4	1.177	0.984-1.409	0.075			
パート・アルバイト・就労なし	449	37.7	741	62.3	1.000					
放課後児童クラブ										
利用できている・利用希望なし	700	37.5	1165	62.5	1.000			1.000		
利用できていない	114	56.7	87	43.3	2.181	1.625-2.927	<0.001 ***	1.956	1.443-2.650	<0.001 ***

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

a: 2項ロジスティック回帰分析を用いた。

表3　地域における子育ての環境や支援への満足度と関連要因＜小学生の父親＞

	満足度				単変量解析[a]			多変量解析[a]		
	低群		中高群							
	N=47	%	N=83	%	OR	95%CI	p値	aOR	95%CI	p値
児の学年										
低学年	12	33.3	24	66.7	0.843	0.375-1.893	0.679			
中・高学年	35	37.2	59	62.8	1.000					
兄弟の人数（本人含む）										
１人	14	29.8	33	70.2	0.671	0.310-1.448	0.309			
２人以上	31	38.8	49	61.2	1.000					
配偶者の有無										
あり	35	33.3	70	66.7	1.000					
なし	12	48.0	13	52.0	1.846	0.763-4.466	0.174			
主な子育ての担い手										
父母ともに	34	34.0	66	66.0	1.000					
主に父	13	43.3	17	56.7	1.484	0.646-3.412	0.352			
相談や協力先の相手										
どちらもいる	35	35.4	64	64.6	1.000					
どちらかいない・いない	12	38.7	19	61.3	1.155	0.503-2.654	0.734			
子育てに自信持てないこと										
ある	25	46.3	29	53.7	1.000			1.000		
ない	22	29.7	52	70.3	0.491	0.236-1.020	0.056	0.552	0.260-1.174	0.123
家計の状況										
ふつう・ゆとりある	22	27.5	58	72.5	1.000			1.000		
苦しい	25	50.0	25	50.0	2.636	1.257-5.528	0.010 *	2.660	1.244-5.689	0.012 *
母親の就労状況										
フルタイム	14	28.6	35	71.4	0.640	0.278-1.474	0.295			
パート・アルバイト・就労なし	20	38.5	32	61.5	1.000					
放課後児童クラブ										
利用できている・利用希望なし	45	38.1	73	61.9	1.000					
利用できていない	2	18.2	9	81.8	0.360	0.075-1.744	0.205			

*p<0.05

a: 2項ロジスティック回帰分析を用いた。